

林業家による教材研究—1枚の写真を通して

松林の伐採とその売り値

作成：波多野達二（はたの たつじ／林業家・元小学校教諭）

寸評：山下宏文（やました ひろぶみ／京都教育大学 教授）*



◀アカマツ林の伐採跡地（京都市北区雲ヶ畑）

語り：「みなさん、これは何だかわかりますか。これは松林を伐採した後の山の様子なのです。写真には一部しか写っていませんが、この切り跡の面積は0.8haほどあります。100m四方の正方形の面積が1haですから、ほぼ90m四方の面積と同じぐらいの広さになります。

この山に、少し前まで松の木が植わっていました。83年生の松で、胸の高さの直径は平均40cmぐらいでした。木を売るときには1本1本、胸の高さの周囲の長さを測り、材積（木の体積）を出すのですが、メジャーで測るとき、木を抱きかかえても手が届かない太い木が、たくさんありました。昔は松茸が採れる山でしたが、20年ほど前から採れる松茸の量は急に少なくなって、5年ほど前からは1本も採れなくなってしまいました。というのは、松が松くい虫にやられ、どんど

ん枯れてきたのです。

今、松くい虫による松枯れは、これから被害にあいそうな地方を含め、日本全国で深刻な問題になっています。このままいけば、松が全部枯れてしまう、そんな、切羽詰まった状況で、やむなく松の木を木材搬出業者の方に売りました。

しかし、この松の木の値段が驚くほど安いのです。1m³の値段が6千円程度、1本の木の材積（4mの丸太3～4本分になる）に換算すると4千円程度です。83年も生きた立派な松の木の値段が、1本4千円程度にしかならないのです。

この切り跡には、また、木を植える準備をしています。しかし、松の木の売り上げでもう一度林を再生できるかということ、考え込んでしまいます。森を守り、育てるということが大変難しい時代になっているのです。」

意図（波多野）：「山を守り、森を育てる」と言っても、経済的な裏づけがなければ不可能である。林業が現在のように衰退してしまったのも、安い外材に押され、日本材の価格が下がり、林業が業として成り立たなくなったことが挙げられる。木材の価格から、日本の森を考えるきっかけとして使ってもらえればと思う。

寸評（山下）：木材価格に関することを、小学校第5学年の社会科を念頭において語ってもらった。小学校では、経済的な側面はあまり扱われないのだが、森林資源を守り育てる林業の現実をとらえるために、こうした木材価格の問題は避けて通ることができない。林業家の生の声をもっと教材として取り上げることが必要である。

*山下…〒612-8522 京都市伏見区深草藤森町1 Tel 075-644-8219（直通）